

作=アーサー・ミラー

訳=丹野郁弓

演出=小笠原響

装置=深川絵美

照明=前田照夫

衣裳=松本昌子

効果=岩田直行

劇団民藝公演
KEIKOBA

記憶の 危うさについて

第一部

『だって何も思い出せない』

“I Can't Remember Anything”

日色ともゑ / 小杉勇二

第二部

『クララ』

“Clara”

横島 亘 / 吉岡扶敏

小守航平 / 金井由妃

2025年
7月27日[日]



8月7日[木]

劇団民藝稽古場

後援=川崎市麻生区

NPO法人しんゆり・
芸術のまちづくり



Design:Taro Matsuyoshi

by

Arthur

Miller

記憶の危うさについて

作=アーサー・ミラー 訳=丹野郁弓
演出=小笠原響

劇団民藝公演
KEIKOBA

『だって何も思い出せない』

年老いた未亡人レオノーラは夫の親友だったレオの家を毎日のように訪ねてくる。ライフスタイルも政治的信条もまるで違う二人はぶつかり合うばかりだが、さりとして他に頼る人間もいない。いろいろな記憶が失われていく今、二人は残された日々を……。

『クラーラ』

娘のクラーラが殺害された。父親のクロールは刑事ファインに事情を聞かされている。娘が何故、誰に殺害されたのか謎は解けないのだが、刑事の追及を受ける内に忘れ去った出来事が不意によみがえる。過去が現在を照らし出し、封じ込めていたクロールの良心が……。

民藝ではこれまでアーサー・ミラーの作品を1954年『セールスマンの死』にはじまり『橋からの眺め』(60年)『るつぼ』(62年)『ヴィシーでの出来事』(67年)『みんな我が子』(70年)『転落ののちに』(86年)『壊れたガラス』(96年)『大司教の天井』(99年)『プライス』(2008年)と上演してきました。

一幕劇二本で構成された『記憶の危うさについて』は、アーサー・ミラーの晩年、1987年に発表されました。二作はきわめて対照的でありながら「記憶」というキーワードで貫かれている点で一対を成しています。実験的な試みとなる稽古場での上演にどうぞご期待ください。

第一部『だって何も思い出せない』



レオノーラ: 日色ともゑ



レオ: 小杉勇二

第二部『クラーラ』



クロール: 横島 亘



ファイン: 吉岡扶敏



ティアニー: 小守航平



クラーラ: 金井由妃

2025年7月27日[日]—8月7日[木]

	7/27 [日]	28 [月]	29 [火]	30 [水]	31 [木]	8/1 [金]	2 [土]	3 [日]	4 [月]	5 [火]	6 [水]	7 [木]
13:30	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○
19:00		○				○						

【入場料金】[全席指定・税込み]

一般: 5,500円 / 「民藝の仲間」会員・川崎市在住割引: 5,000円

バリアフリー割引: 5,000円 [付添者1名無料]

U30(30歳以下): 3,500円 [1公演5枚まで] ※ルーキーシートあり [1公演5枚まで]

【お申し込み・お問い合わせ】劇団民藝 = 044(987)7711 [月~土10時~18時]

【バリアフリー観劇情報】[ご利用の際は必ず事前にご連絡ください]

※バリアフリー割引あります。 ※点字チラシ承ります。

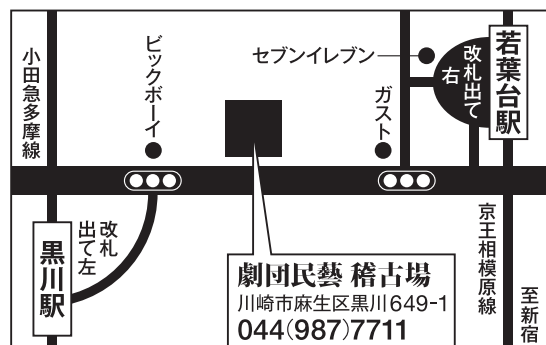
※聴覚障がい者対象・台本事前貸出申込先 Fax=044(986)0034

E-mail=seisaku@gekidanmingei.co.jp(当日受付でも筆談対応可能)⇒詳細はHPで

黒川 | 劇団民藝稽古場

一般前売開始 = 6月18日[水]

「民藝の仲間」会員先行予約 = 6月11日[水]



京王線「調布」で(橋本行)に乗り換え「若葉台」下車徒歩5分
小田急線「新百合ヶ丘」で(唐木田行)に乗り換え「黒川」下車徒歩8分
※駐車場がございません。電車をご利用ください。